

2022 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [六ヶ所村立南小学校] 担当教諭名 [大谷 健太郎・沼邊 恵] (5・6年 19名)

相手国・地域 [トルコ]

海外学校名 [BUMED MEC Kosuyolu Primary School] 担当教諭名 [Ozlem Bilge]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	世界の友達とつながろう	30
	図画工作	形や色に思いをこめて(5年生)	5
		平和をつなげるかたち(6年生)	5

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	エネルギーなどの資源を無駄なく使って、豊かな自然を守ろう Let's produce our energy resources responsibly, consume them consciously and protect nature
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	私たちには、エネルギーや資源の生産と消費とのバランスを考えていく責任があり、それが豊かな自然を守っていくことにつながります。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> SDGsについての理解を、より深めることができた。 改めて自分たちの住む六ヶ所村は、エネルギーに満ちていることを理解することができた。 相手校の国について調べたり、なぜその目標を選んだのかを考えたりすることで、外国への興味・関心や理解度が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手校とのやり取りを密に行い、「外国の児童とつながっている」という実感をもたせられるようにすればよかった。 オンラインミーティングの内容を考え、数回にわたって行う計画が必要だったと感じる。 上学年として、この国際交流を全校へ伝える工夫があっても良かった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> 外国のニュースや新聞記事の内容など、アンテナを張るようになり、日本や青森県、六ヶ所村と比較して考えるようになった。 世界で取り組まれている目標がSDGsだと実感を得ることで、より目標達成に向けて必要なことは何かを考え、プレゼン資料を作成するようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 国によって違う課題の中にも、ただ違いに気付かせるだけではなく、その違いから生まれる、共通する課題はないかを探すようになった(課題の深掘り)。 日本とのつながりについて、歴史などを調べ、総合以外の他教科との接続を意識するようになった。 外国の方々と「つながる」ことへのハードルが、フォーラムやDeepLを使用することでかなり低くなった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	6月 8月 9月	<ul style="list-style-type: none"> トルコの国の文化について知る お互いのSDGsの目標について知る 2グループ(No.7/12)に分かれ、プレゼン資料を作成 	<ul style="list-style-type: none"> トルコの国の文化を調べ、歴史上における日本とのつながりを知り、意欲的になった。 自分たちの選んだ目標だけではなく、トルコの小学校が選んだ目標についても考えたいと話し、実行した。 	総合15
共有 相手と意見交換	9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回プレゼンバトル(7月) 第2回プレゼンバトル(10月) 第1、2回プレゼンバトルの内容をトルコ側へ共有 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目の成果と課題をもとに、夏休みに調べ学習を再度行い、2回目に臨んだ。家庭の様子を調べたり、地域の施設に足を運んだりした児童もいた。 	総合5
融合 メッセージ作成	11月	<ul style="list-style-type: none"> 壁画のテーマ、メッセージを作成し、トルコ側へ共有 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちがこれまでの学習で得たものを共有し、壁画に込めるべきものをじっくりと話し合い、考えていた。 	総合5
創造 壁画制作	11月	<ul style="list-style-type: none"> 作成したテーマ、メッセージをもとに、「ピクセルアート」を用いた壁画制作 完成後、トルコへ輸送(12月) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本文化のよさを生かした壁画にしようと、意欲的に活動していた。トルコの小学校がデザインを加えることで、どのような完成形になるのかを楽しみにしていた。 	総合2 図工10
評価 振り返り 自己評価	12月	<ul style="list-style-type: none"> 半分完成した壁画を見ながら、これまでの活動を振り返る トルコとのオンラインミーティング 	<ul style="list-style-type: none"> 時間をかけて考えてきたものが、「壁画」という形になり、児童は感動していたことに加え、達成感に満ちていた。「外国の小学生たちとともに壁画を創り上げる」ということに、今までにない感覚を味わっていた。 実際にZoomを通してつながったことで、「外国とつながる」ことへのハードルが下がったようだった。 	総合3

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	4	トルコとの歴史上のつながりを教えると、何か他にはないかと調べ始めたり、似ている文化はないかを探したりしていた。また、トルコの文化を知ることにより日本文化のよさに気付くことができたと話す児童がいた。
主体的に考え行動する力	4	SDGsの目標の内容や、その目標を達成するために必要なことは何かを考えられるようにはなったが、それを自分事として捉え、行動に移していく、という姿を見ることはできなかった(活動中)。しかし、トルコや他の国のニュースや新聞記事などにアンテナを張ることができるようになり、シリア・トルコ沖地震の際には応援メッセージを自主的に作成したり、募金活動を促したりする児童がいた。(活動後)
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	批判的、というよりは共感的に、肯定的に見ていたように感じた。批判的に思考させるためには、今一つ教員側の指導・支援が足りなかったのだと考えた。そのためには、より物事を多面的に捉えることができるような指導が必要であり、様々な教科での力の育成が必要である。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	3	相手校とのやり取りが密にできなかったことに加え、オンラインミーティングも1回にとどまってしまったため、対話・協働している、という実感を味わわせることはできなかった。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	自分たちで考え作成したプレゼン資料をもとに、壁画に込めるメッセージを考えることができていた。また、どのようなデザインがよいのかを話し合い、下書き制作を自ら行うことができていた。ピクセルアートでの制作が決まった際は、自分たちのアイデアを現実にするために、デザインについて話し合い、試行錯誤しながら制作を進める姿が見られた。